

株式会社 滋賀銀行 様

柔軟性と拡張性に加え堅牢性を評価
次期基幹系システムにLinuxを採用

滋賀銀行は、基幹システムを全面的に見直し、2008年1月までに刷新する予定だ。その一部である情報系システムは、現在のメインフレームとUNIXサーバの構成から、新たに富士通の基幹IAサーバ「PRIMEQUEST」+Linuxによるオープン・プラットフォームに切り替える。ことさら安定稼働が求められる金融機関において、その信頼性はもとより、柔軟性、拡張性、堅牢性に加え、コスト・パフォーマンスも評価された結果である。

滋賀銀行は、滋賀県大津市に本店を構え、近畿地方を中心に134店舗を擁する有力地方銀行である。

次期基幹系システムはオープン化による開発生産性向上によって、新サービスの提供や経営戦略の立案を柔軟かつ迅速に行うことを目的とした。

「頭取からアドバイスがあった3点、つまり白紙の状態ではバンダーや製品を評価するという複眼的視点、技術革新に追従していけるものを選択するという動態的視点、長期にわたってシステムを企画するための人材育成という視点から、最終的に情報系システムについては、全面オープンへの切り替えを決めました。最終的にPRIMEQUESTの採用を決定したのは2005年5月のことで、開発が



株式会社 滋賀銀行
取締役システム部長
藤井 実氏



株式会社 滋賀銀行
システム部副部長
岩崎 博氏



株式会社 滋賀銀行
システム部
システム開発グループ・調査役
世森 健一郎氏



株式会社 滋賀銀行
システム部
システム開発グループ・調査役
寺本 浩氏

スタートしてから1年経過しましたが、順調に進んでいます」(取締役システム部長の藤井実氏)。

金融機関の基幹システムは、営業時間中に絶対に停止しない高い信頼性と可用性はもちろん、セキュリティや法令遵守に関する要求水準が他業種よりも高い。

そうした厳しい条件下で、オンライン

業務などの勘定系システムは、現在のメインフレームを富士通の最新機種「GS21 500」へ更改する。また情報系システムは、現在のメインフレームと

UNIXで構成されているものを、富士通の「PRIMEQUEST 580」へ移行し、LinuxとOracleによるオープン環境に切り替えるという戦略的な決断を下した。まず、開発機として2006年1月にPRIMEQUEST 440を導入した。本番機のPRIMEQUEST 580(2台)を導入するのは2007年1月の予定だ(図)。

「新システムに移行するにあたり、勘定系は現在極めて安定稼働しているシステムをそのまま稼働させることが、将来的な選択肢を広く残すためにはベストであり、また安全面やコスト面で最も有利と考えました。一方、情報系に関しては現在UNIXでOracleによって構築されている戦略的に優れたDBM(Data

ユーザープロフィール

株式会社 滋賀銀行

所在地 滋賀県大津市浜町1-38
設立 1933年10月
代表者 高田 紘一 頭取
従業員数 2152人 (2006年3月31日現在)
URL <http://www.shigagin.com/>



滋賀銀行本店

Base Marketing)システムを生かすことにしました。デファクト・スタンダードであるOracleとLinuxを組み合わせたオープンな基盤にしたのは、IT資産の保全という大きなメリットを得られるためです」(藤井氏)。

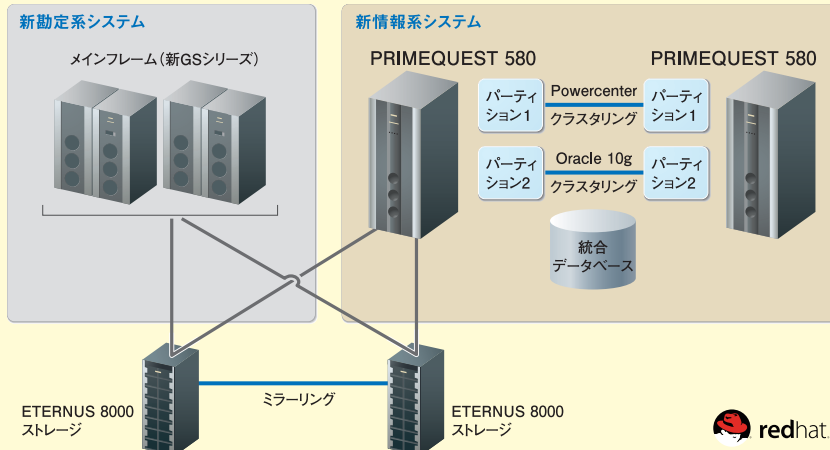
MFと同等の信頼性を確保

Linux採用の背景には、UNIXによる現行システムの問題を解決する狙いもあった。「UNIXもオープンとは言え、ベンダーごとに異なっているため移植性に難点があります。また、現行システムは運用系と待機系のシステム構成が異なるためトラブル時に性能が劣化したり、機能追加も柔軟に行えないなどの問題が生じていました」(システム部副部長の岩崎博氏)。Linuxによるオープン環境なら、その時代の最も可用性/拡張性が高いプラットフォームに移行でき、性能劣化も解決できる。

こうした条件を満たすため滋賀銀行はIAサーバに着目した。PRIMEQUESTを選んだ理由は藤井氏は、「特定のベンダーに依存しないオープン基盤を採用する方針の中で、最終的にPRIMEQUESTに決めたのは、メモリのミラー機能やCPU故障時の待機システム・ボードへの自動交代機能などによるメインフレームと同等の信頼性、最大64コアまでの拡張性、サービス・プロセスやミドルウェアによる運用最適化などの点を総合的に評価したからです」と語る。

メインフレームなら10年間の長期運用も珍しくないが、技術進歩が著しいIAサーバでは5年程度が一般的だ。滋賀

滋賀銀行の次期基幹系システムの概要



銀行はPRIMEQUESTを中心に拡張していけば、十分な処理能力を10年間確保できると判断した。長期間の運用にはハードウェアの性能、拡張性だけでなく、OSやデータベース、ミドルウェアの継続性も重要となる。藤井氏は「メインフレーム主体の勘定系システムが10年後にLinuxに置き換わっているかどうかは分かりませんが、基幹システムの周囲にある多数のシステムでは、Linuxが主流になる可能性は高いと思います。新システムのプラットフォームを検討している際も部門ごとにさまざまな考え方がありましたが、市場動向や技術動向、将来性など複合的に考慮した結果、Linuxの採用が最も妥当であると判断しました」と明かす。

運用面での大幅な改善も期待

新システムでは勘定系、情報系からストレージ・システムETERNUS 8000を共用する。バックアップの時間を短縮し、リソースの最適化が図れるからだ。さらに、統合運用管理ソフトウェア「Systemwalker」の適用によってサーバ/ストレージ/ネットワークなど全体を一元的に監視でき、運用工数を削減できる。

「Systemwalkerは以前から導入していましたが、今回のシステム更改によって、障害個所の特定^{*1}や性能情報の管理^{*2}などの強化された機能を利用できるようになります。また、ヘルプデスク機能^{*3}を利用して、トラブルの対処方法や対処までの履歴などを管理し、迅速な対応を行えるよう、ドキュメントの整備なども進めたいと考えています」(システム開発グループ調査役の世森健一郎氏)。

滋賀銀行は今回のシステム更改に伴いSystemwalkerで統合運用管理する範囲を拡大する。「融資稟議のワークフローや旅費精算など庶務系のシステムが、数十台のUNIXやWindowsサーバ上で稼働しています。これらは更改時期に達していないため、今回は統合の対象にしませんでしたが、今後はLinuxにてPRIMEQUESTへデータベースを統合していくことも考えています」(システム開発グループ調査役の寺本浩氏)という。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン

0120-933-200

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2
汐留シティセンター

*1: Systemwalker Resource Coordinator を適用

*2: Systemwalker Service Quality Coordinator を適用

*3: Systemwalker Centric Manager を適用